

# Akatake Times

Vol. 5  
(通算 第158号)



啓蟄の候、新芽も芽吹きはじめ桜のたよりが聞かれるのももうすぐです。  
♪は～るよ来い♪は～やく来い♪ 暖かい春が待ちどおしい今日この頃です。



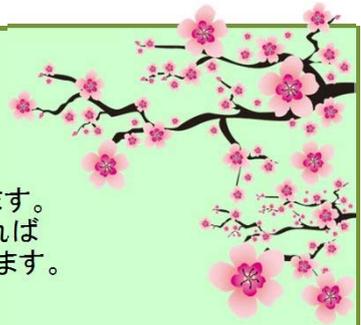
## 『LED』

### 『今月の表紙』

1月16日に、本社事務所棟上部にある外壁看板の改修工事を行いました。その際、これまでは看板自体を発光させていたものを、LED照明で照らすかたちに変更しました。LED照明と言えば「高寿命・低消費電力」という印象が真っ先に浮かぶと思いますが、他にも様々な利点があります。①発光効率が高いため低発熱、②蛍光灯のように水銀を使用しないためRoHS指令への高い順応性がある、③ほぼ点光源のため発光部を小型化できる、④赤外線を出さないため放射熱も出さない、⑤紫外線を出さないため紫外線を好む虫類が寄ってこない、などです。もちろんいくつかの難点がありますが、技術革新が進みそれらが解消されれば、今後さらに普及は加速していくのでしょね。

撮影日時：2015年1月16日

## 防災と子育て



春近し！待ち焦がれていた過ごしやすい季節がもうすぐそこまで来ています。(花粉症の人にはつらい季節？) 厳しい冬があればこそ春が、猛暑があればこそ秋が。四季の贅沢さを味わえる日本人は何と恵まれているかと思います。感性豊かにこれからも過ごしていきたいものです。

◆日々、公私共にあたふたとしながらも何とか平穩に日々を過ごしているのですが、忘れもしない東日本大震災の日がまたやってきます。間違いなく【3.11】という日は、やってくるのですが、あの時の体験や報道をともしれば遠い彼方に追いやっている自分に気が付きます。この機会に、必ずいつか大地震はやってくるという危機感を改めて意識し、その対応を公私ともに取っていきたくと考えています。例えば、我々社員はすぐ近くにヘルメットを用意していますが、我が社を訪れた方々に対する用意は帽子と頭巾だけで万全か、今一度チェックしてみましょう。また、地震発生と同時に行動すべきすべての事項を再チェックし訓練をしましょう。精神的にタフな人は、東日本大震災の録画や写真などで、筆舌に尽くしがたい惨状を目に焼き付けておくことも大事かと。それにしても、大地震と原発事故で福島県住民がいまだに苦しんでいる現状を見るにつけ、復旧・復興は遅々としている感があります。

◆最近、凶悪な少年・少女の犯罪が多く報じられます。一体、我々団塊の世代は何をすべきかと思えます。他人(ひと)を思いやる、他人の痛みが分かる、自分だけで生きているのではない…人としての基本的な心を養うにはどうしたらいいのか。親が親として子育てに全力を傾けられる環境づくりとは何か。行政任せだけではなく、祖父母、隣近所、地域の人たち、ボランティア的な活動などで支援できることが大事でしょう。その意味で、私ども団塊の世代が元気なうちに貢献できることはないか模索していきたくと思っています。

◆時代は違うのだと言われるかもしれませんが、私が育てられた時代の親は、趣味も少なく、娯楽も少ないし、とにかく貧しかった中で懸命に子供を育ててきたと思えます。そういう親を見て子供は育ってきた。悪ガキも多いたがやっちはいけないことはやらない。ある一線は踏みとどまっていたように思います。そこが、現代と大いに違うところではないでしょうか。私は、子育ては“ローテク”が基本ではないかと時々思います。失ってはいけない、変えてはいけない共育というものがあるはずだということです。管理、管理で多忙な学校の先生、IT活用による活字離れ、運動不足、すぐ切れてしまう身勝手なモンスターペアレントなど難しい課題はありますが、ひたすら子供のためにどうしたらいいのか、それぞれの立場で取り組んでいかなければと思っています。

◆子供と接する私の一つの体験ですが… 私には外孫が二人います。3歳男児と5歳女児。ときどき会って遊んでもらっていますが、彼らが(大人から見た)悪さをしていると結構マジに叱ったりしている自分に気が付きます。この叱り方がまずかったなあと反省するときがあります。真っすぐに育てほしいという願いからの行動なのですが、幼児目線で接しなければと思うこともあります。このことはまさしく“共育”であり、子供たちに教えられることの一つで、子どもと接するときの心構えでしょうか。

◆静岡東部地区では、昨今子育てと各市町の人口減が話題になります。良く言われるのは、この町はあの町に比べて子育て支援で行政が行き届いているから移住してきたと。こういう事態は、既存の人口の取り合いでしかないわけで、抜本的な人口減の対策とは言えないでしょう。もっと抜本的な見地から人口減対策をしなければならぬと思っています。

昭和初期に物理学者 寺田寅彦先生が初めて“粉体”という語を使ったことは知られていますが、“天災は忘れた頃に来る”もやはり寺田先生が言いだしたとされています。“防災”という言葉の命名者でもあると言われています。1923年の関東大震災の教訓が十分に活かされていないことに危機感を持ったようです。



子育てに関することであれこれ摘み食いでもとまりのない話になりましたがお許しを。変えてはいけない共育の原点を維持していかなくてはならないと考えています。

代表取締役社長 赤堀 肇紀

私は(一社)日本粉体工業技術協会に19ある分科会の中の、「電池製造技術分科会」の代表幹事を2014年度から努めております。そこで最近の電池業界の動向について述べたいと思います。

平成25年のボーイング787電池火災事故などを受けて、電池開発もエネルギー密度重視から、安全性と寿命重視へと大きく変わってきました。日本ではHEVやプラグインHEVの販売は好調ですが、純EVの販売は伸び悩んでいます。一方、米国では、日本のパソコン用電池を大量に積層したテスラ社EVの販売が大きく伸びており、大型電池プラントの設置が計画されています。また、中国では、環境対策として電気バスの導入が大規模に進められており、大型電池プラントの設置が活発に進められています。また、韓国メーカーを中心に、自動車用蓄電池を標準化して、世界の自動車メーカーに供給しようという動きが活発です。

このように国内電池市場は横ばい状態ですが、海外では各種自動車蓄電池の販売が急拡大しており、国際競争力の高い電池製造技術を確認することが急務となっています。

燃料電池の低コスト化と高性能化も大きく進展し、1回の水素充填で500km走行できる燃料電池車が約700万円で販売されました。

2020年の東京オリンピックまでに水素供給インフラを整備し、広く普及を図る政策が進められています。燃料電池の量産において、触媒などナノテクを駆使した材料開発と電極製造が不可欠であり、最先端粉体技術が重要となっています。

また、電力貯蔵用大型蓄電池の開発も活発です。

中でも、90℃付近で作動するナトリウムイオン電池や、硫黄系固体電池など次世代蓄電池の開発が進められています。

これらの製造技術に対応した粉体技術の開発も求められており、電池業界での我が社の出番はまだまだあると言って良いでしょう。



## 総合カタログ リニューアル

営業ツール作成チーム

2015年2月13日に、当社の総合カタログをリニューアルしました！  
昨年4月に「営業ツール作成チーム」を立ち上げ、改訂作業を進めてまいりましたが、ここに完成の日を迎えることとなった訳です。  
改訂に際し重視した点はいくつかありますが、主だったものを挙げると、

- ① ページ数を減らし、総目録として見やすいボリュームとした。
- ② 機器をカテゴリ分けし着色することで、検索しやすくした。
- ③ 業界アイコンを付け、お客様が自分の業界と照らし合わせられるようにした。
- ④ 可能な限り機器の写真を撮り直した。

などがあります。

今回の改訂はいわばフルモデルチェンジになりますが、ここで終わりではありません。

自分たちが使ってみて気付いた点、お客様から指摘された点を反映し、随時マイナーチェンジをしていき、内容を更に良いものに改善していく必要があります。

そのためには、皆様の御協力が欠かせません。

今後ともよろしくお願い致します。

なお、総合カタログの改訂と並行して、当社ホームページのリニューアルも行っています。

より見やすく、より分かりやすく、充実した内容となるよう配慮しながら作業を進めています。

また、スマホからもアクセスしやすいよう、モバイル用ページも作成する予定です。

近日中に公開できると思いますのでご期待ください！

